

農林水産物・食品の輸出促進について

～稼げる農林水産業に向けて～



平成30年12月19日

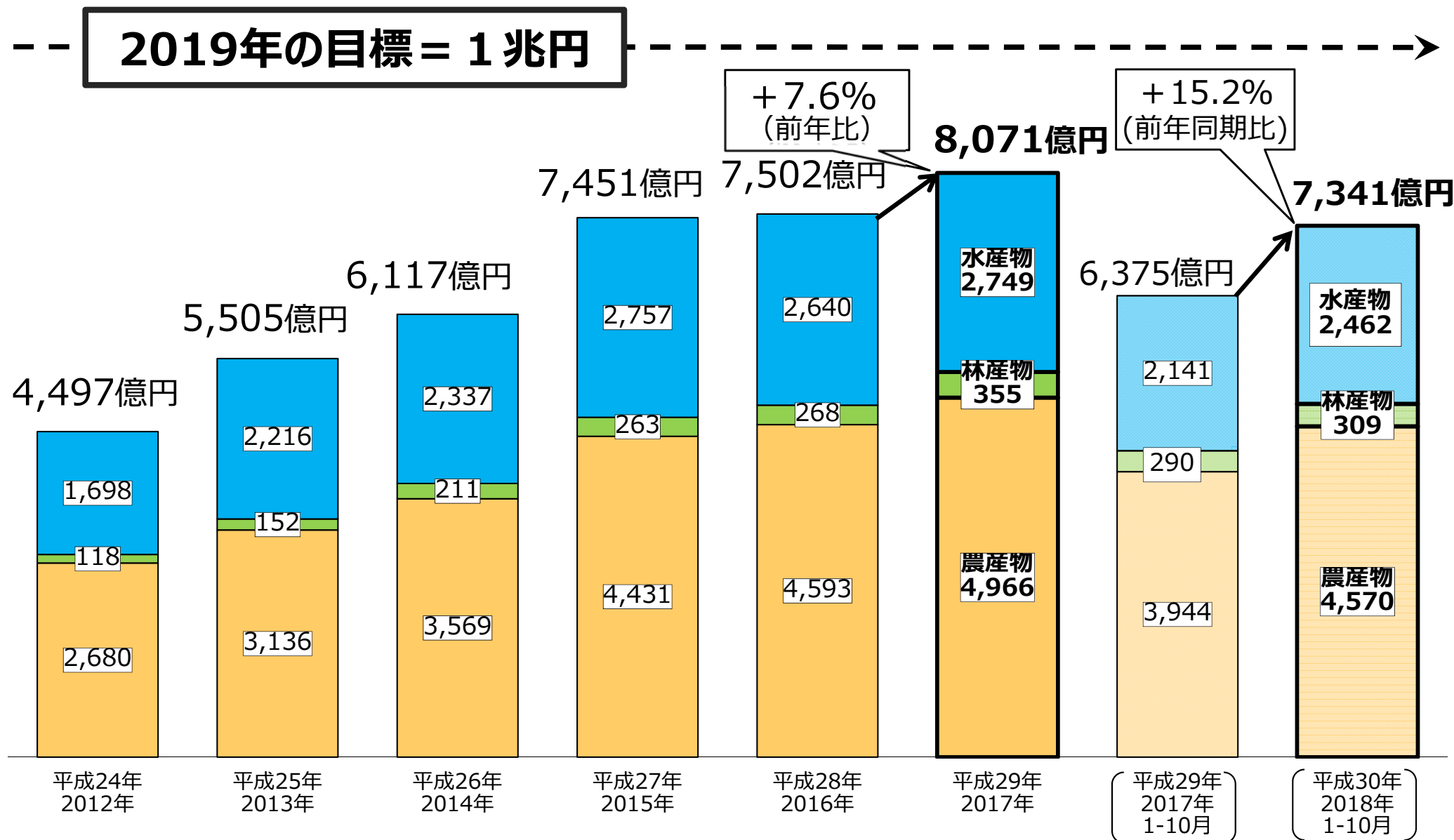
農林水産省

目次



- **農林水産物・食品 輸出額の推移等…………… 2**
- **関税・規則等の状況…………… 5**
- **日本発の食品安全規格がGFSI承認を取得… 6**
- **十勝地方のながいもの輸出……………8**
- **GFP 農林水産物・食品輸出プロジェクト…………9**
- **JFOODOの創設……………11**
- **日本の食品 輸出EXPO……………13**

農林水産物・食品 輸出額の推移



2018年の農林水産物・食品 輸出額（1-10月）（品目別）

品 目	金 額 (百万円)	対前年同期 増減率(%)
加工食品	252,408	19.9
アルコール飲料	51,002	16.0
日本酒	17,702	19.9
ソース混合調味料	26,518	9.4
清涼飲料水	23,737	19.2
菓子（米菓を除く）	15,158	12.7
醤油	6,350	9.1
米菓（あられ・せんべい）	3,567	4.6
味噌	2,862	6.1
畜産品	53,077	6.2
畜産物	34,912	19.9
牛肉	18,831	32.5
牛乳・乳製品	12,478	6.5
鶏肉	1,561	▲ 1.3
鶏卵	1,197	48.5
豚肉	845	7.0
穀物等	33,811	17.9
米（援助米除く）	2,937	16.6
野菜・果実等	32,208	18.3
青果物	21,488	19.0
りんご	8,964	36.0
ぶどう	2,893	12.6
いちご	1,945	40.6
もも	1,780	11.0
ながいも	1,777	▲ 10.6
かんしょ	1,049	53.0
なし	910	6.0
かんきつ	388	3.4

品 目	金 額 (百万円)	対前年同期 増減率(%)
その他農産物	85,496	9.8
たばこ	15,339	33.5
緑茶	12,201	3.6
花き	9,804	6.7
植木等	9,058	7.5
切花	746	▲ 2.8
林産物	30,914	6.8
丸太	12,262	8.9
合板	5,468	15.6
製材	5,001	16.7
水産物（調製品除く）	188,941	15.7
ホタテ貝（生鮮・冷蔵・冷凍等）	39,418	4.6
真珠（天然・養殖）	27,980	8.7
さば	25,011	49.7
かつお・まぐろ類	15,720	30.5
ぶり	13,672	5.6
いわし	7,236	88.8
たい	4,063	45.3
さけ・ます	3,302	▲ 4.1
すけとうたら	1,239	▲ 4.9
さんま	1,042	51.5
ほや	433	▲ 30.8
水産調製品	57,252	12.7
なまこ（調製）	16,513	1.7
練り製品（魚肉ソーセージ等）	8,411	12.7
ホタテ貝（調製）	5,127	6.0
貝柱調製品	4,536	56.8

2018年の農林水産物・食品 輸出額（1-10月） 国・地域別

順位	輸出先	輸出額 (億円)	前年同期 増減率 (%)	輸出額内訳(億円)			主な輸出品目		
				農産物	林産物	水産物	1位	2位	3位
1	香港	1,688	16.9	995	5	688	真珠	なまこ(調製)	たばこ
2	中国	1,083	35.2	541	135	407	ホタテ貝 (生・蔵・凍 等)	丸太	アルコール飲料
3	米国	964	6.1	671	24	269	ぶり	アルコール飲料	ソース混合調味料
4	台湾	704	10.5	555	18	131	りんご	アルコール飲料	ソース混合調味料
5	韓国	510	6.9	357	30	123	アルコール飲料	ソース混合調味料	たい
6	ベトナム	374	23.2	214	7	154	粉乳	植木等	さば
7	タイ	367	13.6	158	3	206	かつお・まぐろ類	豚の皮(原皮)	さば
8	シンガポール	226	10.1	186	2	37	アルコール飲料	牛肉	ソース混合調味料
9	フィリピン	137	16.8	42	64	30	合板	さば	製材
10	オーストラリア	136	11.7	122	0	13	清涼飲料水	アルコール飲料	ソース混合調味料
—	E U	390	5.6	336	6	48	アルコール飲料	ソース混合調味料	緑茶

関税・規制等の状況

関税	TPP11発効(H30.12.30～)・・・日本の農林水産物・食品の輸出拡大の重点品目の全てで関税撤廃。
	日EU・EPA発効(H31.2.1～)・・・牛肉、茶、水産物等の輸出重点品目を含め、ほぼ全品目で関税撤廃。 日本ワインの輸入規制の撤廃。
知財	日EU・EPA発効(H31.2.1～)・・・農産品・酒類(日本酒等)に係る地理的表示(GI)を相互に保護。

主な規制緩和	原発事故による規制・・・事故後に設けた54の国・地域→現在25の国・地域	
	H29.12 EU：検査証明書等の対象地域及び対象品目が縮小。(福島県のコメ等を検査証明対象から除外)	
	H30. 7 香港：4県産の野菜・果実、牛乳等(輸入停止)が検査証明書等の添付で輸入可能。 11 中国：新潟県産米(輸入停止)が産地証明書の添付で輸入可能。 11 ロシア：福島県産の水産物の規制が解除。	
植物検疫	ベトナム：りんご(H27.9)、なし(H29.1)、玄米(H30.5)	
	米国：うんしゅうみかん(福岡県、佐賀県、長崎県及び熊本県の追加)(H28.7)、かき(H29.9)	
	中国：精米(精米工場及びくん蒸倉庫の追加)(H30.5) タイ：かんきつ類(三重県及び福岡県内の生産地域の追加拡大)(H30.8)	
動物検疫	H30. 5 豪州：牛肉	H30.11 韓国：殻付き家きん卵
	6 アルゼンチン：牛肉	
	10 米国：殻付き鶏卵	
	10 台湾：殻付き家きん卵・卵製品	

日本発の食品安全規格がGFSI承認を取得

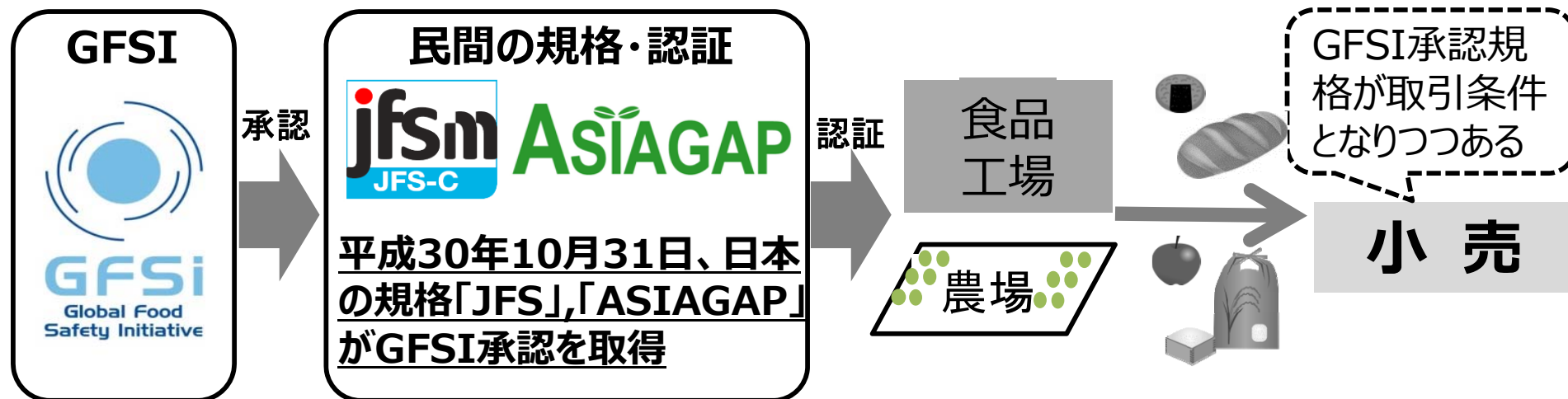
1. 日本発の規格である**JFS**と**ASIAGAP**が10月31日に**GFSIの承認**を取得。
2. 欧米を中心とした世界の食品小売・製造事業者において、GFSI承認規格による認証が取引条件となりつつある。
3. 今回の承認により、JFSとASIAGAPを取得した製造事業者・農業者の取組が**国際標準**で評価され、**日本の農業・食品産業の輸出力が強化される**。

GFSI（世界食品安全イニシアティブ）

カーギルをはじめとした世界的に展開する食品企業が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、協働して食品安全管理規格の承認等を行う民間団体。

GFSIボードメンバー

Chair:カーギル Vice-Chairs : アホールド、ウェグマンズ
Member : アマゾン、イオン、ウォルマート、カルフル、ココーラ、コストコ、ダノン、ドール、マクドナルド、メロ、モンデリーズ、ネスレ、中糧集团有限公司 等



2020年東京オリ・パラも契機として、日本の規格・認証の戦略的活用を推進し、農産物・食品の輸出拡大及び農業・食品産業の経営力強化を図る

EUで保護される日本側GI 48産品 [日EU・EPAと同時施行]

※ EUで保護される産品の選定に当たっては、交渉妥結時の登録産品(58産品)の中から、生産者団体の輸出意向、生産量、EUのGI制度の対象品目か否か等を踏まえ、EU側と調整。

 あおりカシス 青森県	 加賀丸いも 石川県	 前沢牛 岩手県	 紀州金山寺味噌 和歌山県	 堂上蜂屋柿 岐阜県
 但馬牛 兵庫県	 三島馬鈴薯 静岡県	 くろさき茶豆 新潟県	 美東ごぼう 山口県	 小川原湖産大和しじみ 青森県
 神戸ビーフ 兵庫県	 下関ふく 山口県	 東根さくらんぼ 山形県	 木頭ゆず 徳島県	 入善ジャンボ西瓜 富山県
 夕張メロン 北海道	 能登志賀ころ柿 石川県	 みやぎサーモン 宮城県	 上庄さといも 福井県	 香川小原紅早生みかん 香川県
 八女伝統本玉露 福岡県	 十勝川西長いも 北海道	 大館とんぶり 秋田県	 琉球もろみ酢 沖縄県	 宮崎牛 宮崎県
 鹿児島の壺作り黒酢 鹿児島県	 十三湖産大和しじみ 青森県	 大分かぼす 大分県	 若狭小浜小鯛さ漬 福井県	 近江牛 滋賀県
 くまもと県産い草 熊本県	 連島ごぼう 岡山県	 すんき 長野県	 桜島小みかん 鹿児島県	 辺塚だいたい 鹿児島県
 鳥取砂丘らっきょう 鳥取県	 特産松阪牛 三重県	 田子の浦しらす 静岡県	 岩手野田村荒海ホタテ 岩手県	 鹿児島黒牛 鹿児島県
 三輪素麺 奈良県	 米沢牛 山形県	 万願寺甘とう 京都府	 奥飛騨山之村寒干し大根 岐阜県	※日本語名称だけでなく、翻訳名称もEUでの保護の対象。
 市田柿 長野県	 西尾の抹茶 愛知県	 飯沼栗 茨城県	 八丁味噌 愛知県	

北海道十勝地方のながいもの輸出

1. 北海道のJA帯広かわにしは、平成11年頃から、国内市場の**価格維持**と低価格でカット販売される**太物の販路拡大**を目指して**台湾向けの輸出**に取り組む。
2. 台湾での高評価が華僑ネットワークで米国に伝わり、台湾系商社の米国法人を通じて**米国に輸出拡大**。
3. 現地の卸売事業者と連携して輸出入手続や運送を託し、**自らは生産に注力**。平成20年、選果場が土もの野菜として世界初の**国際的なH A C C P 認証取得**。
4. 年間を通して太物商品を安定供給するため、十勝管内9農協による**広域連携**で生産に取り組み、J A 帯広かわにしが一元的に集荷・選別・出荷。
5. また解凍するだけですりおろした長いものの風味が味わえる「**冷凍とろろ**」等の**加工品**も輸出。
6. 平成28年に「十勝川西長いも」が**GI登録**。

全国のながいもの輸出・生産の推移

	平成19年 2007年	増減率	平成24年 2012年	増減率	平成29年 2017年
輸出額（億円）	18.7	▲ 6%	17.5	44%	25.3
輸出数量（トン）	5,794	▲ 26%	4,289	9%	4,662
輸出単価（万円／トン）	32.3	26%	40.9	33%	54.2
生産単価（万円／トン）	26.1	28%	33.5	20%	40.3*

財務省「貿易統計」・農林水産省「生産所得統計」・作付統計調査」を基に作成

* 生産単価については統計の都合で平成28年のデータを利用

GFP 農林水産物・食品輸出プロジェクト

GFP ジー・エフ・ピー＝Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Project

1. 今年5月の農産物輸出促進対策委員会の提言を踏まえ、輸出に本気で取り組む生産者などを登録してコミュニティ化し、支援するための**サイトを8月末に立ち上げ**。
2. スマホで登録すれば、無料で輸出の可能性を診断する「**輸出診断**」を受けられることとし、11月中旬までに500以上の登録。うち約300者が「輸出診断」を希望。



農林漁業者・食品事業者が受けられるサービス

- ◎農林水産省・農政局、ジェトロ地方事務所等が連携して無料で行う**輸出診断**の利用。
- ◎農林水産省と協力する100以上の輸出商社が海外需要に基づいて発信する「**商品リクエスト情報**」を直接メールで受信。
- ◎**輸出したい商品**を農林水産省を通じて輸出商社に発信。
- ◎輸出する商品も生産できる**産地づくりの計画策定**や**産地整備**に対する補助。
- ◎登録メンバー同士の**交流イベント**への参加。

GFP 輸出診断の現場

1. 10月から各ブロックで輸出診断を試行的に実施。
2. 地元の地方公共団体の視察や報道機関の取材があり、関心は高い。

WakkaAgri 長野県・コメ



マルイシファーム 神奈川県・野菜



レッドアップ 熊本県・トマト



GRA 宮城県・イチゴ



マルク農園 香川県・果樹加工品



丹波しのたろう 兵庫県・加工食品



JFOODOの創設

農林水産業・地域の活力創造プラン（平成28年11月改訂）を踏まえ、平成29年4月
日本食品海外プロモーションセンター（JFOODO ジェイフードー）をジェトロ内に創設。

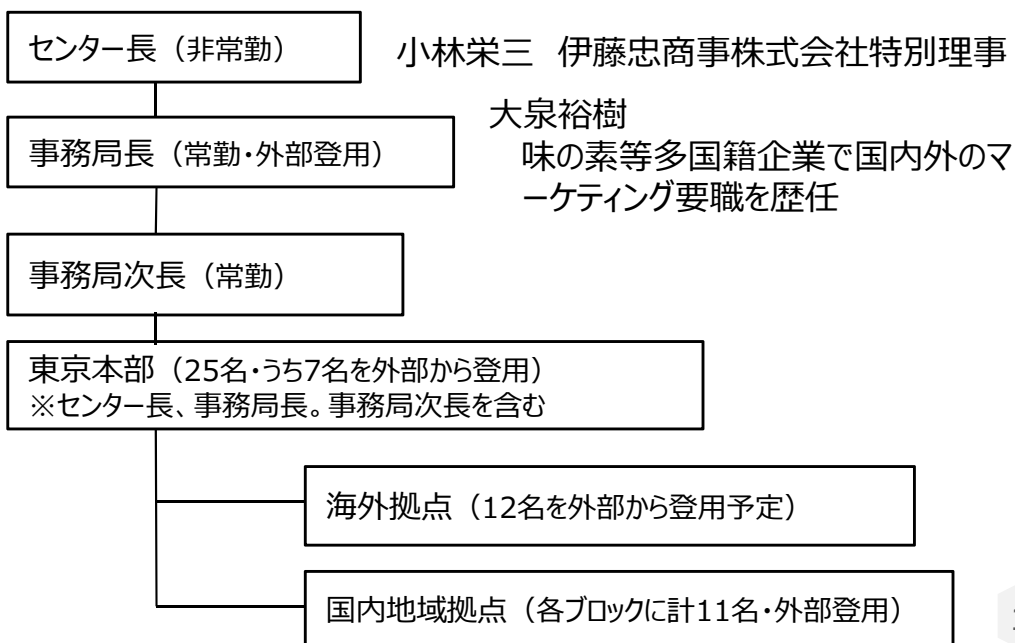
- ①海外市場のニーズ把握や、現地の卸・小売・外食事業者等の商流を作り出すキープレーヤー等の情報の徹底調査。
- ②どの国・地域に、何を、どこで（小売・外食・中食）売り込むか戦略設定。
- ③日本の食文化と一体となった、ブランディングのためのオールジャパンでの海外市場の消費者向けプロモーションを実施。

「日本産が欲しい」という現地の需要・市場を作り出し、産地の特色・魅力にあふれた産品を相応の価格で輸出することで生産者の所得向上につなげる。

【ロゴマーク】



【体制】※平成30年11月1日時点



JFOODOの第一次取組テーマの活動実績

平成29年12月、**第一次ターゲット5品目7テーマ**のプロモーション戦略を決定、平成30年1月から新聞・雑誌、屋外、デジタルでの広告の展開、PRイベントの開催等現地でのプロモーションを実施。

品目	エリア	起点	戦 略
水産物 (ハマチ(ブリ)・ホタテ・タイ)	アジア	香港	味や栄養・安全性を前提に、文化的アプローチで、日本産の水産物を寿司店で関心を喚起して選択を後押し、ローカル市場におけるサーモンの牙城を崩す。
和牛	アジア	台湾	日本産のブランド力、スライス肉の現地インフラを活用し、豪州産や米国産のWagyuでは本格感を訴求しにくい日本式しゃぶしゃぶ等をキーディッシュとして、部位や等級を拡大し、名声にシェアを近づける。
日本茶	米国・欧州 中東	米国	IT企業を中心に広がる日本由来のマインドフルネス（リラックス・集中力増強方法）のブームをとらえ、競合茶よりもテアニンが豊富な日本茶を心と体を整えるマインドフルネスビバレッジとしてリポジショニングする。
日本酒	欧州・米国 アジア	英国	日本酒の入り口としてのキーディッシュを設定した上で、日本酒本来の価値を伝えて消費者を日本酒の世界に引きこんだ後、好みの日本酒を選べるような情報を整備する。
米粉	米国 欧州	米国 仏国	グルテンフリー度と生地適性に優れた日本産米粉を、パンやピザに原料ブランドとして訴求し、世界の情報発信都市を起点に日本国内需要米の100倍に相当する小麦粉市場を少しずつ置き換えていく。（世界のグルテンフリー市場は、平成32年に5,000億円に達するとされる。）
日本ワイン	欧州・香港 米国	英国 香港	欧州品種ワインに比べ、バランスが良くエレガントな日本ワインを、世界の料理の潮流であるマイルドな味付けの料理に相性の良いワインとして、権威誌を通じて先進国のソムリエに広め、大ワイン市場に食い込んでいく。（世界のワイン市場は3兆9千億円（平成28年））
クラフト ビール	米国	米国	米国におけるクラフトビールブームをとらえ、特徴のあるフレーバーを持ち日本のクラフトマンシップで実現され日本で作られた点を訴求し、新しいオプションを提供していく。（米国のクラフトビール市場は3.8百万キロリットルと、既に日本のビール総市場を超えている。）

日本の食品 輸出EXPO

日本の農林水産物・食品を海外バイヤーにアピールする初めての大規模見本市「**日本の食品 輸出EXPO**」を平成29年（2017年）からリード エグジビション ジャパン及びジエトロが幕張メッセで共催。農林水産省が有力バイヤー招聘を補助。

	第1回 平成29(2017)年	第2回 平成30(2018)年	第3回 平成31(2019)年 【数値は目標】
会期	10月11-13日	10月10-12日	11月27-29日
出展者数	304	638 菓子18→51、水産物20→58	800
海外バイヤー	71カ国 2,860人	71カ国 3,008人	80ヶ国 3,500名
来場者総数	12,836人	14,677人	18,000人
商談金額	131億円	223億円	350億円